

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04541

研究課題名(和文)カナダの教員養成系大学における多文化教師教育の実施状況に関する研究

研究課題名(英文) Multicultural Teacher Education in Pre-service Programs at Universities in Ontario, Canada

研究代表者

児玉 奈々 (Kodama, Nana)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：10389603

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：2015年以降、多文化教師教育が必修化されたカナダ・オンタリオ州教員養成プログラムの各大学における実施状況を、先行研究等が望ましいあり方として示している、授業科目とフィールドスタディの接続という分析視点から考察を行った。インタビュー調査を行った8大学すべてでプログラムの様々な場面で多文化教師教育が実践されているものの、授業科目とフィールドスタディが接続された多文化教師教育を実施している大学は半数であった。インタビュー結果の考察から、接続されているか否かの違いに、教員養成プログラムの教員の多文化教師教育の内容をどのように扱うかについての認識や意識の違いが関係していることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で明らかにしたカナダ・オンタリオ州の教員養成プログラムの実態と課題に鑑み、外国にルーツを持つ子どもが増える日本の学校において文化的に多様な子どものニーズに対応できる教員を育てるためには、授業科目とフィールドスタディが接続された多文化教師教育の開発と実践が求められる。本研究の成果は、科目とフィールドスタディの接続が学生の多様性に対する意識の向上により大きな効果をもたらすことを明らかにした点において学術的意義があり、日本の教員養成への提案を示したことにおいて社会的意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：This study examined how elements of equity and diversity are incorporated into the curricula of the newly introduced four-semester preservice teacher education programs in Ontario, Canada. The data were collected through interviews with senior faculty members in teacher education programs at eight Ontario universities.

It was found that the majority of universities incorporated equity and diversity in several different courses. Field experience programs in diverse settings, such as immigrant settlement agencies and overseas teaching practices, are available in all eight universities. However, only a half of universities even had diversity-related courses and field experience programs in diverse settings that were well connected and mutually supported.

In conclusion, a reconstruction of the curriculum and teacher educators' notions of equity and diversity is required to accelerate the permeation of the elements of equity and diversity throughout the teacher education program.

研究分野：比較教育学

キーワード：多文化教師教育 カナダの教師教育 授業科目とフィールドスタディの接続 教育における公正 教育における多様性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本の学校に外国にルーツを持つ子どもが年々増え、全国の学校に散在する傾向にある現在、多様な文化的背景を持つ子どもへの対応は、日本のどの地域のどの教員にも起こり得ることとなっている。しかし、こうした多文化化が進む環境で指導力を発揮できる教員を育てる取り組みは、日本の教員養成においては依然、十分ではなく、多文化教師教育の開発と推進が必要となる。

このような背景から、移民の子どもなどの文化的に多様なマイノリティの子どものニーズに対応できる教員を育成する取り組みをすでに実施している北米の教員養成プログラムの実態と課題を考察し、日本に有益な視座と知見を得ることは大きな意義があると考え、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究は、多文化社会カナダの中でも特に移民や先住民などのマイノリティが多く住むオンタリオ州の多文化教師教育を対象とする。オンタリオ州では、2015年に修業年限や実習日数の延長と併せて、多文化教師教育、子どものメンタルヘルス、特別支援教育、学習指導時のICT活用などの中核内容を必修とする4学期制教員養成プログラムへの改革が行われた。また、オンタリオ州の多くの大学が2015年以前から国内の移民や先住民の多い地域における実習や海外教育実習などの多文化環境で実施されるフィールドスタディの豊富な実績を持つ。

これらのことを踏まえて、先行研究や教員養成プログラムの課程認定審査を担当するオンタリオ教員協会(Ontario College of Teachers: OCT)が望ましいあり方として示している、授業科目とフィールドスタディが接続された多文化教師教育について、オンタリオ州の各大学の実態の評価を行い、接続に関わる課題を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

まず、アメリカやカナダで行われてきた多文化教師教育の実践や理論についての先行研究を精査し、本研究の分析の視点を「授業科目とフィールドスタディが接続された多文化教師教育」に設定した。

次に、OCTが発行する資料を参考に、カナダ・オンタリオ州の4学期制教員養成プログラムで必修化された中核内容の一つ「公正と多様性」について分析を行い、オンタリオ州の多文化教師教育の理念と内容を明らかにした。

その後、オンタリオ州内で教員養成プログラムを設置する16大学のウェブサイトの科目概要やシラバスを参照し、「公正と多様性」の内容を扱っている授業科目とフィールドスタディの両方を設置する12大学を特定した。12大学のうち調査の協力を得られた8大学の教員養成プログラム担当者を対象に、半構造化面接法によるインタビュー調査を行い、中核内容「公正と多様性」を各プログラムでどのように扱っているかを尋ねた。

インタビュー記録を書き起こしたものを分析し、授業科目とフィールドスタディの接続について考察を行った。

4. 研究成果

各大学の授業科目やフィールドスタディ(実習)を扱った事例研究を中心にアメリカで数多く行われてきた多文化教師教育の先行研究は、多文化教師教育の実践の多くが既存のカリキュラムに多様性を扱う授業科目を数科目追加する形式や1科目のみの開講であることを明らかにしてきた。そして、特定科目のみの開講では得られる効果が限定的であると指摘し、教員養成プログラム全体で多様性の内容を扱うことを提案した。また、移民の多い学校や地域等の多文化環境でフィールドスタディを実施することが、学生の異文化に対する意識の向上や多様性の受容及び理解にとって、効果的な教育方法であることを指摘している。国内の多文化環境だけではなく海外教育実習のような海外で実施されるフィールドスタディについても、国際感覚や外国語スキルに加えて、移民の子どもが在籍する国内の学校で教員となった時に必要となる異文化理解力や多様性に対応する力の向上に効果があることが確認されている。さらに、多文化環境におけるフィールドスタディが授業科目と関連づけて実施されることで、学生の多様性に対する意識の向上により大きな効果をもたらすことを明らかにしてきた。

これらの先行研究の調査から、授業科目とフィールドスタディが接続されたプログラム構成が多文化教師教育の望ましいあり方であることを導き出した。本研究はこれを分析視点として、カナダ・オンタリオ州の4学期制教員養成プログラムにおける多文化教師教育の実態と課題について考察を進めた。

インタビュー調査を行ったオンタリオ州の8大学のうち7大学が、中核内容「公正と多様性」に関わる必修科目を複数開講している。また、8大学すべてが、多文化環境におけるフィールドスタディを学校外実習としてカリキュラムに位置づけている。学校外実習は、州内の公費学校で一定の条件で実施することが求められる正規の教育実習とは別に、国内外の教育活動等に学生が参加するものであり、8大学のうちの6大学が学校外実習を卒業要件としている。このように、

インタビュー調査を実施した大学では、中核内容「公正と多様性」に関わる必修科目の複数開講、多文化環境におけるフィールドスタディの実施、授業科目以外に全学生受講必須の特別セミナーやワークショップで「公正と多様性」のテーマを扱うといったプログラムの様々な場面において多文化教師教育の取り組みが行われている。多文化教師教育の先行研究が指摘した特定の授業科目のみの開講では効果が限定的という課題を改善した多文化教師教育が、オンタリオ州の4学期制教員養成プログラムでは行われているという評価ができる。

しかし、先行研究がより望ましいあり方とし、また、OCTが期待するような、授業科目とフィールドスタディが接続された多文化教師教育を実施している大学は、インタビュー調査を行った8大学のうち4大学であった。例えば、E大学では、4学期制教員養成プログラムへの改編の際、「社会的要請に対応できる教員養成を目指してテーマを検討した結果、その多くが公正と多様性に関わるものとなった（E大学教育学部副学部長）」というように、テーマ別の学校外実習を卒業必修とし、この実習の前に「文化的多様性、難民の声、英語の指導が必要な子ども、危機にある若者等に関わる現状の社会正義のあらゆる問題（科目概要より）」を扱う科目“Critical Analysis of Social Global and Cultural Issues in Education”を履修することを必修化した。

インタビュー調査の結果を踏まえると、授業科目とフィールドスタディが接続されているか否かの違いに、教員養成プログラムの担当教員の中核内容「公正と多様性」についての認識やどこでその内容を扱うことができるか、あるいは扱うべきかということについての意識の違いが関係していることを指摘できる。接続が行われている大学は、ある内容をプログラム全体で扱ったり、授業科目による理論学習とフィールドスタディの実践との間につながりを持たせたりすることによって教育の効果が高まるという認識を有しており、授業科目とフィールドスタディを接続して構成したカリキュラムに中核内容「公正と多様性」を組み入れていた。一方、接続していない大学については、中核内容「公正と多様性」に関わる知識とスキルが、海外教育実習などの既存のフィールドスタディによって学生が獲得していく力と同じものを指すという認識を持っていなかったり、「公正と多様性」の内容を授業科目だけではなくフィールドスタディでも扱うことへの意識が乏しかったりという実態が見られた。

これらのことから、オンタリオ州の多文化教師教育がより大きな成果を得るためには、各大学において、中核内容「公正と多様性」についての深い理解、多文化教師教育の内容をどのように扱うかについての議論をしっかりと行っていく必要があると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 児玉奈々	4. 巻 18
2. 論文標題 研究会発表報告 オンタリオ州の大学の教員養成プログラムにおける多様性－カリキュラム設計の考察－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 カナダ教育研究	6. 最初と最後の頁 50, 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 児玉奈々
2. 発表標題 オンタリオ州の大学の教員養成プログラムにおける多様性：カリキュラム設計の考察
3. 学会等名 カナダ教育学会第53回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 児玉奈々
2. 発表標題 カナダ・オンタリオ州の多様性を扱う教員養成制度の展開
3. 学会等名 日本比較教育学会第54回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nana Kodama
2. 発表標題 Opportunities for and experiences of developing intercultural competence for teacher education students in Canada
3. 学会等名 11th Biennial Comparative Education Society of Asia, CESA 2018: 'Education and Social Progress: Insights from Comparative Perspectives'（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nana Kodama
2. 発表標題 Immigrant Students and Racial Injustice in Canadian Public Education
3. 学会等名 日本教育学会第80回大会課題研究I: Integration of Immigrants and the Role of Public Education: Envisioning Inclusive Policies and Practices in the With/Post Covid-19 Era
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 児玉奈々
2. 発表標題 カナダの学校教育における多文化主義の受容と実践
3. 学会等名 日本カナダ学会第46回年次研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 児玉 奈々	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 201
3. 書名 多様性と向きあうカナダの学校	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------